

第29回 大阪府福祉のまちづくり条例施行状況調査検討部会 議事録

日時 : 令和7年7月8日(火) 14時00分～17時00分

場所 : 大阪・関西万博会場

参加者 : 岩田 三千子 摂南大学 名誉教授
石塚 裕子 東北福祉大学 総合マネジメント学部 教授
斉藤 千鶴 関西福祉科学大学 名誉教授
田中 米男 一般財団法人 大阪府身体障害者福祉協会 副会長
上田 一裕 一般財団法人 大阪府視覚障害者福祉協会 副会長
長宗 政男 公益社団法人 大阪聴力障害者協会 会長
羽藤 隆 一般社団法人 大阪脊髄損傷者協会 会長
小田 多佳子 社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会 理事長
泉本 徳秀 障害者(児)を守る全大阪連絡協議会 代表幹事
堀 篤子 障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議
濱崎 はるか 新設 C チーム企画
中屋 吉広 一般社団法人 大阪外食産業協会 専務理事
山本 隆明 一般社団法人 大阪府建築士事務所協会 副会長
山本 尚子 公益社団法人 大阪府建築士会 委員

■ シャインハットについて

○委員

- ・エレベーターは大きさが大事である。万博では 24 人乗りを基本とし頑張っていた。シャインハットのエレベーターは片袖ではなかったが、大きさが確保されていた。
- ・車いすは袖があると斜めにしか入れないため、片袖の有無は、車いす利用者にとっては非常に重要である。大阪府のガイドラインにぜひ入れていただきたい。健常者が配慮なく乗車すると、車いす利用者のスペースが確保できず、結果的に乗れる人数が減ってしまうことがある。
- ・ボタンは丸形が基準であったが、間が少しへこんでいた。手に障がいがある方にとっては、少し出っ張った形のほうが使いやすい。ボタンの形は非常に重要である。
- ・広めのトイレを設けることは、機能分散とともに、コンパクトな車いす利用者にも対応できる非常に重要な視点だと思っている。
- ・扉の幅や形状は重要であり、シャインハットは 80cm の引き戸で使いやすかったが、大阪ヘルスケアパビリオンは 70cm の押し戸で車いす利用者が鍵をかけられない問題があった。
- ・オールジェンダートイレが中央に設置されているのはよいと思った。
- ・シャインハットのトイレでは、天井の仕切りで女性比率を調整できる工夫があり、女性比率を考慮することは大事である。大阪府のガイドラインにも織り込んでもらえるとよい。
- ・車いす席では、子どもの視線の高さに配慮し、手すりの高さを工夫することが重要である。シャインハットでは手すりが低く、視界が確保されていて見やすかった。
- ・車いす席は後方の 6 席だけでなく、舞台前の広土間も活用できるスペースだが、誤って車いす席は 6 席しかないという認識で運営されないか心配になった。
- ・バリアフリー施設を実際のサービスに活かすには、運営者の理解と、案内表示、周知、研修の充実が重要であり、大阪府のガイドラインにもその視点を盛り込むことを考えていただきたい。
- ・シャインハットでは、ヒアリンググループが車いす席でも利用可能であることを示す表示がなかったのが残念だった。
- ・センサリールームは階段があったため、車いす利用者が使えず、非常に残念だった。

○委員

- ・シャインハットでは、ヒアリンググループ席が 3 箇所分散していて、席を選べるようになっていたのがよかった。
- ・ヒアリンググループ席の表示が見えづらく、照明が暗くなると耳のマークが見えないため、もう少し高い位置や座席の後方に案内表示があるとよい。
- ・案内板にヒアリンググループ席の表示がなかったので、表示していただきたい。
- ・大阪府のガイドラインには字幕表示の記載があるが、万博UDガイドラインには記載がなかった。建物の構造上の制約がある中でも、スクリーンに必ず音声情報を字幕表示する配慮を願う。
- ・全体的に地域の公民館に比べるととても通路が広く、スケールが大きいと思ったが、合理的配慮については地域の公民館に比べるとコンパクトな感じがする。建物の大きさにあわせて配慮すべき。例えば、大阪ヘルスケアパビリオンもそうだが、トイレの入口に災害時は地震や津波などの避難表示に変わる時計がある。それが 1 箇所しかない。大きな施設なので、もっとたくさん設置していただきたい。

○委員

- ・点字表記が低い位置にあり残念だったが、エレベーター周辺では音による案内があり、その点は評価できる。
- ・エレベーターに車いす利用者と立っている人の両方に対応した高さにボタンがあり、大変よかった。
- ・シャインハットの座席に背もたれがない点はよいが、階段の段鼻が見えづらく、移動時に危険が伴う可能性があるため、工夫が必要と感じた。
- ・一般的には背もたれ上部に点字表記があり席の番号がわかるが、今回は丸いシールのみだったので分かりづらかった。蓄光素材を使うなどの工夫を今後してほしい。
- ・停電時でも使える車いす対応避難器具があり、他の施設でも導入されることを期待している。

○事務局

- ・1 点確認したい。点字表示が低いという話であったが、エレベーターの話か。全体的に気になったのか。

○委員

- ・エレベーターにも点字表示の課題があり、上下にボタンがある点はよいが、触地図には大きな改善の余地がある。
- ・現在地の点字表示の位置が低く、読みづらい。また、現在地の表示位置が混乱を招く可能性があるため、点字の高さや配置に改善が必要だと感じた。

○委員

- ・シャインハットにはオールジェンダートイレがあり、その設置自体は良いが、全体的には男女別トイレの印象が強い。ただし、オールジェンダートイレの表記もあり、通路が分かれていることで視線への配慮はされていると感じた。
- ・ガイドラインにはオールジェンダートイレの設置について記載があるが、設置位置に関する記載がなく、具体的な設置位置についても表現を加えた方がよいと考えている。
- ・建設設計標準では「男女が共用できる位置」と表現されているが、「すべての人が使える位置」という表現が望ましく、ガイドラインでも設置位置について検討する必要があると思った。
- ・コンサートホールで男女別トイレを左右に配置するのは一般的だが、両側に分けることで使いやすくなり、オールジェンダートイレの配置もしやすいと思う。
- ・シャインハットはサイズ的には中間的だが、男女の家族はどこで待ち合わせすればよいか、分かりにくい施設の構造だと思った。
- ・シャワールームが、男女別だったため、オールジェンダーのシャワールームもあるとよいと思った。アイスランドでは水泳施設(プールなど)で更衣室のそういう取り組みもあるようである。ガイドラインでも可能な範囲で、更衣室やシャワールームにそういう配慮があることを望む。

○委員

- ・センサリールームを設置していたことは嬉しく、驚いた。
- ・親子室とセンサリールームは目的が全く異なるため、混同しないようにしてほしい。親子室は子どもの

声などで周囲に迷惑をかけないための部屋であり、センサリールームは感覚過敏のある人が快適に芸術を楽しむための空間である。両方設置している施設はまだ少なく、正しい理解と配慮が求められる。

- ・センサリールームを親子室としても使えるように、応用の効くスペースにすればよいと感じた。可動式のソファ席や段差のない構造にすることで、子供連れや車いす利用者にも対応できるため、現状は惜しいと思った。
- ・カームダウンクールダウンルームに車いすが置かれていたのは残念だった。カームダウンクールダウンルームは何もない空間が基本であるべきである。ただ、こうした部屋を設置し、意識していただいていることは非常にありがたい。
- ・案内図にカームダウンクールダウンルームやセンサリールームの記載がなく、分かりづらかった。
- ・トイレの案内表示が後付けのように見え、案内への配慮が不十分に感じられた。特にトイレ内の「待機ライン」の表記が日本語のみで、外国人や知的障がい者にとっては分かりづらいのではないかと感じた。文字だけでなくシンボルなど視覚的な案内があると、不安感も小さくなり、活動しやすくなる。ガイドラインではわかりやすい案内表示について盛り込んでいただきたい。

■ 大阪ヘルスケアパビリオンについて

○委員

- ・大阪ヘルスケアパビリオンのトイレでは、中央にオールジェンダートイレがあるのがよいと思った。
- ・異性介護への配慮で設置されたカーテンが、車いすを単独で使う人には邪魔になることがあるため、カーテンホルダーを設置してほしい。カーテンを手すりに絡めて使うのは不適切であり、収納しやすい工夫が必要であると思う。
- ・授乳室やおむつ交換台が車いすでも使いやすくなっていて、非常に感動した。
- ・トイレにナビレンスがあり、よかった。バリアフリーはハード面だけでなく、ナビレンスや shikAI(シカイ)のような視覚障がい者向け情報提供システムもガイドラインに積極的に盛り込んでほしい。
- ・大阪ヘルスケアパビリオンのカームダウンクールダウンルームは工夫されていてよいが、万博にはいろいろなパビリオンがある中で、場所や使い方が分かりにくいと思った。
- ・発達障がいの息子と万博に訪れた際、カームダウンクールダウンルームを使おうとしたが鍵がかかっていて困った。今後の運用方法が重要であり、よい活用事例をガイドラインに載せてほしい。
- ・シャワールームについて、舞台上がる障がい者もいるため、舞台裏のシャワールームに障がい者用がないのは残念。当事者の利用も考慮してガイドラインを充実していただけるとありがたい。
- ・大阪ヘルスケアパビリオンの「みんなトイレ」は、当事者が参加して意見を出し合いながら設計された先進的な事例であり、ナビレンスの表現なども検討された。国でも当事者参画のガイドラインが進められているため、大阪府のガイドラインにもこうした事例を取り入れ、当事者参画を奨励してほしい。

○委員

- ・大阪ヘルスケアパビリオンのトイレに設置されたフラッシュライトは、聞こえない人にも分かりやすく、個室内でも反応していて非常によい設備だった。こうした設備を府域にも広げてほしい。
- ・出入口の時計に災害時の文字情報表示があるのはよいが、1箇所だけでトイレ用のように見えるのは

もったいない。もっと多くの場所に文字情報表示を設置してほしい。

- ・ 入口前の大きなデジタルサイネージに、災害時の情報を表示できるシステムを導入すべきだと思った。
- ・ カームダウンクールダウンルームでは、聞こえない人が利用する際にインターホンだけでは情報伝達が困難で、モニターも設置されていない。非常用ボタンを押すと警備員が来る仕組みはあるが、より分かりやすい情報伝達手段が必要だと思った。
- ・ 鍵がかかっていないので大丈夫と言われたが、本人のプライバシーを十分に守られるのか気になる。
- ・ カームダウンクールダウンルームは1階と2階で運用が異なり、1階には鍵や防災表示があるが、2階には鍵がなく、防災表示も見えづらかった。非常用設備の案内はどの階でも分かりやすく表示すべきだと感じた。

○委員

- ・ ナビレンスは視覚障がい者にとって非常に有効な設備であり、次回のガイドライン改定でもぜひ謳っていただきたい。
- ・ shikAI(シカイ)は QR コードなどを使って、進む方向や周囲の情報を具体的に伝えてくれるため、今後の福祉のまちづくり条例にぜひ盛り込んでいただきたい。
- ・ トイレの設計は大変よかったが、服や荷物を掛けるフックがついていなかったところがあったのは残念だった。
- ・ 男性用の便房の広さが若干狭かった。
- ・ ドアノブ近くのつっぱり式の荷物かけは強度が弱く、バックパックをかけるには不向きだと思った。
- ・ オールジェンダートイレの個室にカーテンがあることで異性介護への配慮は感じられたが、収納性の問題や場所のわかりにくさがあった。

○委員

- ・ みんなトイレの説明は非常によく、知的障がいなど理解されにくい障がいについても工夫された説明があることで共に過ごせる可能性が広がると感じた。読みたくなるような魅力的な説明がされていた点が特によかった。
- ・ 大阪ヘルスケアパビリオンのカームダウンクールダウンルームは、壁にクッション性があるなど安全面に優れ、強度行動障がいのある息子がいる立場から見ても非常に優秀なカームダウンクールダウンルームで驚いた。
- ・ カームダウンクールダウンルームにカメラがあること自体は安全面でよいが、設置の意図を明示する表示がない状態でカメラを設置しているのはどうなのかと思った。本人の意思を尊重するためにも、「安全のためにカメラで見守っています」といった表示が必要だと感じた。
- ・ インターホンについて、どこにつながるのかを利用者が質問しなければならないのは不自然であり、最初から接続先や使い方の説明があるべきだと感じた。利用者にとっては重要な設備なので、設置の意味や目的についてももう少し丁寧な説明が欲しかった。
- ・ シャインハットのセンサリールームやカームダウンクールダウンルームは、正しい使い方の理解と周知が重要である。これらの部屋が「隠れる場所」など誤った認識をされると、本当に必要な人が使えなくなる可能性があるため、正しく利用されるよう、周知を徹底してほしい。
- ・ 鍵の使用については多くの事例や利用者の意見を集めるべきだが、個人的には鍵があることで本人

の飛び出しを防げて非常に助かっている。本人の権利やプライバシーを守りながら、安全面にも配慮するためには、今後も丁寧な議論が必要だと考えている。

○委員

- ・大阪ヘルスケアパビリオンは、オールジェンダートイレが中心となっていて、男女トイレは別々になっているというパターンができてるのは非常に面白く、使いやすいと感じている。
- ・男性用トイレの表示について、個室がない場合は「男性小便器」と明確に示すべきだと思う。個室を使いたい男性のためにも、設備内容に即した表示が必要であり、小便器専用のピクトグラムなどを作ることが望ましい。JIS 規格に沿ったマークを使いたいというのもあるが、大阪府のガイドラインにもおすすめのピクトグラムを作ることができると、大阪府のガイドラインもより進んだものになる。今回の民間の努力によるピクトグラムは好印象で、小便器のマークがあるトイレもよかったと感じている。
- ・大阪ヘルスケアパビリオンのこどもトイレは、壁や扉があり保護者が見守れる構造で、プライバシーが確保されていてよい事例だと感じている。万博の他施設では男性用小便器が並んでいる中に小さな便器がポツンとあるだけのケースもあり、配慮が足りないと思った。このようなよい設計をガイドラインで示すことで、プライバシー確保にもつながると思う。
- ・大阪ヘルスケアパビリオンの男性用トイレには間仕切りがあり、その点を高く評価している。

○委員

- ・両方のパビリオンを通じて、エレベーターは 24 人乗りで乗りやすく、大勢の方が乗れた。
- ・最近、エレベーター利用者が増えており、車いす利用者だけでなく、高齢者やベビーカー、インバウンドによる外国人旅行者もいるので従来の小型エレベーターでは対応しきれない。こういった社会情勢の変化から見ても、24 人乗りを標準とは言わないが、大型化は社会のニーズに合っているのではないか。ガイドラインにもその方向性を反映してほしい。
- ・エレベーターは遠くからでも見つけやすいように、壁と異なる色で目立たせると利用者にとってわかりやすくなる。色分けはエレベーターの位置を把握するのに非常に効果的である。
- ・シャインハットの客席について、車いす用座席が何席もあったが、車いす用座席は限られており、現行の条例ガイドラインやバリアフリー法でも制限されていて、実態に合っていない気がする。万博では必要な席数の確保に加え、複数の場所から選べたり、舞台正面などにも車いす席を設けるなど、柔軟な客席配置がされていた。舞台正面などにも車いすスペースを設けるなど、今後も自由度の高い空間づくりを進めてほしい。
- ・車いす利用者には介護者が同伴することが多いため、車いす席と同じ数の同伴者席を設けることが重要である。
- ・同伴者席は、パイプ椅子や丸椅子ではなく、一般座席と同じ仕様にするのが重要である。
- ・シャインハットの車いす席の横にある階段との仕切りに照明灯が設置されていたが、転倒の危険があるため、安全性を高める保護柵の設置が望ましいと感じた。
- ・万博 UD ガイドラインでは、コンセントを車いす座席に固定席 5 席に 1 箇所程度つけるということが規制として書いてあるが、シャインハットでは実際見当たらなかった。車いす利用者も携帯やパソコンを使うため、こうした設備はぜひ実現してほしい。
- ・シャインハットで、災害時に車いす利用者が 2 階から避難できる専用器具を初めて見て体験し、こんな

ものがあるのだと思った。これまで避難手段が限られていたが、このような器具の存在は心強く、今後の普及が望まれる。現在の設置状況は不明だが、広く導入されることを期待している。

■ 資料 1 について説明

○会長

- ・万博 UD ガイドライン改定や大阪ヘルスケアパビリオンのユニバーサルデザインに関わってきた立場から、今回改めて施設を見学し、皆さんの意見を聞いて気づいた点をいくつか述べたい。
- ・今回の会の目的は、府の条例基準の見直しとガイドラインの充実であり、建物の基準で言うと既に改正が決まっているフラッシュライトの設置や、ガイドラインの基準も今日皆さんに評価いただいたので、積極的に取り組んでいくべき基準が明確になったと思う。
- ・一方、エレベーターについては、今回万博で 24 人乗りが標準になっていることで、既存のまちなかのエレベーターの使いづらさを再確認できた。今後、ガイドラインの中でどう示すか検討する必要がある。
- ・改めて今日皆さんと回らせていただいて反省を含めて気づいた点が 4 点ある。
- ・1 点目は、カームダウン、クールダウンルームやヒアリングループなどの設備が整備されていても周知や案内がまだまだ不足している。
- ・2 点目は、特定の障がいに対応して整備されたカームダウンクールダウンルームが、他の障がいのある方にとっても使いやすいのかという点で、まだ不足があったと感じた。
- ・3 点目は、災害対応であり、フラッシュライトや電光掲示板の位置や数、車いすの移動などについては私も初めて見させていただいたが、災害対応についてさらに検討が必要だと感じた。
- ・4 点目は、カームダウンクールダウンルームの数や、小便器のピクトグラムをどうしていくのかなど、まだ基準化が難しい課題がある中で、今後も当事者参画を通じて検討を続ける必要性を改めて感じた。
- ・最後に、私は大阪ヘルスケアパビリオンに関わらせていただき、今日は設備などについてポイントで見えていただいたので、なかなか気づきにくかったと思うが、大阪ヘルスケアパビリオンは完全な新築で「同一動線・同一体験」を目指し、すべての人ができるだけ同じ体験をしていただくことを目指して作ったパビリオンである。次はぜひ楽しむために訪問していただき、体験していただいた感想を聞かせていただけるとありがたい。

以上